

「もんじゅ」に関する質問主意書

右の質問主意書を国会法第七十四条によつて提出する。

平成二十八年十月二十七日

福島みずほ

参議院議長 伊達忠一殿

「もんじゅ」に関する質問主意書

九月二十一日に原子力関係閣僚会議が「もんじゅ」について、「廃炉を含め抜本的な見直しを行うこととし、その取り扱いに関する政府方針を、高速炉開発の方針と併せて、本年中に原子力関係閣僚会議で決定することとする」ことを決定した。そこで「もんじゅ」の廃炉に関連して以下、質問する。

一 「もんじゅ」にはこれまで一兆円を超える開発費用がすぎ込まれたが、九五年のナトリウム漏えい火災事故以来一ワットも発電していない。これを動かすとなれば、適合性審査と改良工事、運転開始までの八年間の維持管理経費など、さらに約三千三百億円が必要とされている。長期停止で「もんじゅ」の施設および国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（JAEA）の組織は劣化しており、このような施設は廃止するべきと考えるが、改めて政府の姿勢を問う。

二 原子力規制委員会の勧告や同委員会の田中俊一委員長の記者会見での発言などでは、「もんじゅ」の現状について「リスクを低減させる必要がある」、「安全が担保されていない」旨の指摘がされているが、政府としても同様の認識か。

三 原子力規制委員会が求めるリスクの低減と安全の担保のためには、施設からナトリウムを抜き取り、燃

料を取り出すことが必要だと考えるが、政府はどのように考えているか。

四 「もんじゅ」の冷却系は一次系と二次系のそれぞれが三ループ（A、B、C）およびメンテナンス冷却系で構成されている。冷却系に関して以下質問する。

1 一次系と二次系にはそれぞれオーバーフロータンクとダンプタンクがあるが、それぞれのタンクの数と容量を系ごと、ループごとに示されたい。

2 使用されていないBループのナトリウムはどこに貯蔵されているのか。

3 過去に一ループだけの循環運転を行っていた時期があった。現在、一ループだけの循環運転は可能か。仮に不可能な場合、可能になるのはいつごろと認識しているのか。

4 仮に「もんじゅ」の運転を再開する場合に、施設全体で使用するナトリウムの量はどれだけか。総量の他に、原子炉容器、各ループ、炉外燃料貯蔵槽などの内訳も示されたい。

5 「もんじゅ」でのナトリウムの放射化の割合はどの程度か。また、燃料被覆管などにおける不純物に起因する核分裂生成物はどの程度の量あるのか。

6 ナトリウムは施設内にある限り、液体状態であると考えられ、漏えいが生じると火災に至る可能性も

ある。したがって施設からナトリウムを抜き取り、化学処理して安全な化合物とするか、または固体状態で保管するかの対応をとることが「もんじゅ」のリスク低減につながると考えるが、政府の考えを問う。

7 ナトリウムを抜き取る場合に、施設内のナトリウムの全量を貯蔵できる建屋外のタンクがないことを考えると、どのような手順でナトリウムを抜き取り、保管管理することが考えられるのか政府の見解を問う。

五 次に「もんじゅ」の燃料について問う。JAEAによれば、現在、原子炉内にMOX燃料集合体が百九十八体、ブランケット燃料集合体が百七十二体、そして炉外燃料貯蔵槽にMOX燃料集合体が百二十一体、ブランケット燃料集合体が三十九体、さらに燃料池にそれぞれ一体ずつ保管されている。

1 このうち未照射の燃料集合体はあるか。ある場合、MOX燃料集合体、ブランケット燃料集合体それぞれ何体あるか。

2 照射済み燃料集合体全体の平均燃焼度はどの程度か。また、集合体ごとの平均燃焼度のうち、最も高い値はどの程度か。同様に、照射済み燃料集合体全体の平均発熱量はどの程度か。また、集合体ごとの

平均発熱量のうち、最も高い値はどの程度か。

3 炉外燃料貯蔵槽および燃料池のそれぞれの容量はMOX燃料集合体またはブランケット燃料集合体の何体分か。

4 炉外燃料貯蔵槽および燃料池ではそれぞれ冷却系が稼働しているのか。

5 原子炉内および炉外燃料貯蔵槽にあるMOX燃料集合体およびブランケット燃料集合体も、「もんじゅ」のリスク低減のために、すべて燃料池へ移送するべきだと考えるが、政府の見解を問う。

右質問する。